

平成 29 年 11 月 14 日

石川県知事 谷本正憲 殿

日本鳥類保護連盟石川県支部
支部長 林 哲
日本野鳥の会石川
代表 中村正男
森の都愛鳥会
会長 辻村 澄

絶滅のおそれのある動・植物の保護施策について（要望）

日ごろから野鳥保護の普及啓発について、ご協力を賜り御礼申し上げます。

去る5月26日、県知事あてに輪島市大釜地域に計画されている「門前グリーンパーク」の建設予定地に生息している多数の絶滅危惧種の保護について県の考え方ならびに環境審議会または第三者委員会等での審議を要望いたしましたが、県の担当課からの回答は今日に至ってもありません。

また、県環境審議会（環境影響評価部会）においても（議事録；平成27年6月9日、7月30日、9月3日）、大釜地区に多数生息している絶滅危惧種の保護について、ほとんど議論されておりません。このことは県の絶滅危惧種保護の*基本指針に鑑みても、その対応はきわめて不適切であります。

よって、県当局の絶滅危惧種の保護について、再度下記のとおり要望します。回答は11月30日までに書面でお願いします。

記

- 1 輪島市大釜地区に確認されている「いしかわレッドデータブック」における絶滅危惧種（*特に絶滅危惧Ⅰ・Ⅱ類の動物30種、植物35種）の保護に対して、早急に会議を開催し、審議・検討してください。
- 2 県はいしかわレッドデータブックの基本指針を遵守し、生物多様性保護を進める立場から大釜地区の絶滅危惧種の保護について、どのような検討・議論をしてきたのか。その回数、時期、内容など示してください。
- 3 本年、大釜地区及び周辺地区で絶滅危惧種（絶滅危惧Ⅰ類及び準絶滅種）のミゾゴイ、ノスリの*繁殖が確認されたことについて、その保護対策は必須であり、その指導指針を示してください。

*いしかわレッドデータブックに係る絶滅危惧種保護の基本指針（2000年；県策定）

- ①絶滅の危機が迫っている種類を守り、②絶滅の危機にある種を救うために活動し、③その種の保全の実を挙げる。

*『門前クリーンパークの建設事業にかかる環境影響評価準備書』（株式会社門前クリーンパーク、平成25年発行）には、「石川県の絶滅のおそれのある野生生物 いしかわレッドデータブック 2009」に記載されている鳥類32種、両生・爬虫類5種、魚類1種、昆虫・クモ類22種、淡水貝類4種、海域生物10種 計74種（うち絶滅危惧Ⅰ、Ⅱ類30種）、植物は種子植物など62種（絶滅危惧Ⅰ、Ⅱ類35種）、すなわち動植物合計136種（絶滅危惧Ⅰ、Ⅱ類合計65種）が掲載されている。

*ミゾゴイ保護の進め方（2016；環境省）

*ミゾゴイ、ノスリの繁殖状況写真（添付）